

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
The Kikunokai Dance Troupe
Representative : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



菊の会 京都八瀬研修所より



ご挨拶

舞踊集団 菊の会
代表 畑 聡

新緑の候、益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。
皆様のご厚情によりまして、舞踊集団菊の会はこの四月二十四日をもって、四十一周年を無事に迎える事ができました。

これまで長きにわたりご支援賜りましたことに、心より御礼申し上げます。
本当に有難うございました。

創立当時は畑道代先生によりましてわずか七名からスタートでしたが、その後 何も知らない、何も出来ない私達(当時は九歳〜十一歳までの子供二十二名)を育成し、舞踊団の運営や新しい作品創りにと、全てに精力をかたむけ奔走して築いてきた師匠畑道代先生は三年前に身罷りました。その大きな衝撃も皆様の温かくそして力強いご支援に支えられ、菊の会は今日を迎える事が出来ました。

本年はまさに新しい出発の年となりました。
四十一年前には、ゼロからのスタートでしたが、今新たな出発に当たり皆様の絶大なるご厚情を持って応援して下さいる多くの方々に恵まれ、感謝の気持ち一杯です。

これからは菊の会一同、更なる結束でこれまで皆様から賜りましたご厚情に報ずる思いで、創立者の精神と情熱を継ぎ、更なる精進をして参ります。
何卒、従来にもましてご指導並びにご支援を賜ります様お願い申し上げます。

「輝きをつなぐ」



作曲家
日本現代音楽協会会長
坪能 克裕

この一月「新春に舞う」と、二月「新進若手公演」の東京アトリエ公演に、私は連続して伺

いました。家族と暮らす日常の空間が、天の美男美女の舞台に変わる時間は、何物にも代え難い感動を生むので、畑道代先生の時代から楽しみで通い続けてきました。そして誰もが興味のあるところでしようが、畑 聡さんの新時代になって何がどうつながったかも興味がありました。優しく温かく人々を包むような風に満たされてきました。華やぎだけでなく、踊りを通した人々の輝きもつながっていました。もちろん舞台裏では季節の変わり目のような風が吹いていたと思われる。それは当然のことです。ひとは本質的に保守なところがありますから、厳しい目の批評家になっていくことが多いものです。その保守性は、偉大な先生の全てを偲び続け



る素晴らしさにつながりますから、誰も責められないことだと思われず。

しかし、偉業や舞踊・菊の会の伝統を護ることは、これまでのコピーではなくアグレッシブなものです。異なる目を生かして、表現が変わって行くことは当然なことでもあります。一番困ることは遠慮です。「道代先生だったら・・・」と第三者の目を生かそうと立ち止まることです。歩み続けながら、舞踊を愛する全ての人々を導いて欲しいと、私たちは願っていることでしょう。

新進若手公演は「春疾風(はるはやて)」と題されていました。そこで聡さんの振り付けが披露されました。輝きがつながっていたように思いました。みなさまご覧になりましたか? 菊の会は次世代の育成(子ども・学



畑聡振付による新作「春疾風」より

校への企画)も熱心です。舞踊の芸術領域は、聡さんと菊の会により拡大されて行くのです。

伝統芸能の豊かな魅力を体感!

善通寺市立竜川小学校
校長 尾形知子

文化庁主催「次代を担う子ども文化芸術体験事業」として行われた「菊の会」の公演。ほとんどの子どもたちが邦舞を身近に見るのは初めてという大きな期待の中、いよいよ始まった皆様の踊り。

それは、ほんの一瞬ですべての子どもらの心を足すことしま



竜川小学校より



代表の生徒さんから真心の花束を頂く

シヨップトリハーサル体験だけで、今まで見せたことのない表現者の顔に変化していることにも驚きました。

今、小学校の教育現場では、子どもたちの「表現力」を育むことが大きな課題となっています。「菊の会」の皆様は、ワークショップを通して、まさにその答えを示して下さったように感じました。

公演の後、三年生にも大きな変化がありました。子どもたちが、一学期に社会科で学習した校区に伝わる香川県無形文化財指定「シカシカ踊り」若い後継者が少なくなったこの踊りを練習したいと申し出て来たの



「新進若手の進境で 伝統を守り、さらに発展」

舞踊評論家
うらわまこと

メンバー全員が強い絆で結ばれ、質の高い感動的な舞台を作り続けている舞踊集団菊の会。創立者の畑道代（初代尾上菊乃里）さんが残念ながら亡くなられて（もう早や3年になるのです）、二代目尾上菊乃里を継がれた畑聡さんをはじめ、尾上名を許された5名の方々を中心に、先代の遺志を継いで精力的に活動を続けておられます。四国中心に十九校を訪れた、文化庁の平成二十四年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」の学校公演も大変に意義のあるものですが、菊の会の将来を担う人たちの育成も大事な仕事です。この意味で、先日（本年2月）菊の会アトリエで行われた「新進



上 大和楽「うぐいす」
右 狂言舞踊「棒しばり」



学校公演の最後に「阿波おどり」を一緒に踊る事が出来ました（普通寺

した）私を忘れて見入る低学年輝く瞳でその所作を一心に追う高学年。次々に演じられる美しい踊りや豊かな表現の数々は、子どもたちの心を掴んだままあつと言う間に終演の時を迎え、最後は四年生全員が参加した阿波踊り。まるで幼い頃から踊っているかのような男踊りを見せてくれた男の子。きりつと引き締まった顔つきで滑らかな女踊りを披露した女の子たち。見ていた低学年の児童もいつの間にか一緒に踊り出すほど会場全体が踊りの渦に巻き込まれていました。私たち教員は、いつもおとなしい四年生が、たった一度のワーク



普通寺市立竜川小学校の生徒の皆さんと記念撮影



生徒さんの後方より登場した獅子に思わずびっくり興奮！

です。「菊の会」の皆様が、地域の伝統芸能を守りたいという子どもたちの心にも赤々と火を灯して下さったようです。実り豊かな公演をありがとうございました。

若手公演「春疾風」は、非常に興味のあるものでした。

出演はすでに経験深い中堅を芯に、新進、若手メンバー。まず初代の振付作品、まさに早春時宜をえた「うぐいす」を若手女性二人が鮮やかに踊り、この会の意味を明らかにします。そして、この売り物の一つ狂言舞踊「棒しばり」を、飯田栄志、青田義則、中村英俊さんの、まさに次代の幹部3名が演じ、進境をみせました。第二部はまず畑聡さんの振付による『春疾風』で、青田さん、葛西輝子さんはじめ中堅に混じってまだ若い男性二人が初々しい踊りで、ほほ笑みを呼びました。

続く「天城越え」など、古今の

名曲による菊の会舞踊選集『早春に舞う』でも、畑道代さんの作品とともに中堅女性三人による「季節の私夢話」など聡さんの振付作品も披露され、若手を含めて六人の男性、十一人の女性が華やかな、若々しい舞台をみせました。中堅にさらに飛躍の機会をあたえ、新進、若手に経験をたませるという、よく考えられたプログラムでした。若い舞踊家たちも、このような良い環境、優れた先輩たちとでりつぱに成長し、菊の会の伝統を守り、さらに発展させていくこととしましょう。また、それを期待したいと思います。

京都アトリエ公演 「日本のおどり」によせて

千總資料館
加藤結理子



しだれ桜が満開の菊の会京都八瀬研修所で、4月6・7日(4回公演)菊の会八瀬研修所公演「陽春に舞う」が開催されました。

今回も地元京都の皆様を初め、全国からお越し下さり、海外からも沢山のお客様がお越しに

なりました。その中で、この度創業450年の歴史を持つ京友禅の老舗株式会社「千總」の資料館に勤務されております加藤結理子さまに、初めて菊の会公演をご覧頂き、感想を頂きましたので、本誌でご紹介させていただきます。

時が過ぎるのを忘れて楽しませていただきました。久保田万太郎氏が浅草の四季折々の美しい情景をつづった長唄『都風流』では、優雅な踊りに魅せられました。場面、場面でみせる、扇や傘を開いたり閉じたりする所作、ストーリーを暗示するしぐさ、その動きの



八瀬公演終了後ラトビア共和国からのお客様と共に

この度は、菊の会創立四十一周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。京都アトリエ公演「日本のおどり」へ初めて伺いましたが、長唄、狂言舞踊、舞踊選集とバラエティに富む内容で、最初から最後まで

一つ一つが情緒に溢れていて美しく、踊りの一挙一動に見入ってしまいました。一転して、狂言舞踊『釣女』は、一人者の殿様と太郎冠者のお嫁探しの物語。見事に美女を妻に迎えた殿様に憧れて、太郎冠者は自分も、と頑張りますが・・・太郎冠者と醜女のユーモラスなキャラクターに会場には笑いが絶えませんでした。昔の人の笑い話、つくり話でありながら、現代にも通じるおかしさがあり、人の滑稽さが温かく生き生きと表現され、物語にどんどん引き込まれていきます。そして最後に圧巻



左「維新の人」坂本龍馬より
右「早春賦」(東京アトリエ)より



「望郷じよんがら」「夜桜お七」など、

Information 菊の会公演予定

【薫風に舞う】舞踊集団 菊の会公演・日本のおどり
5月10日(金) 15:00時開演
所沢市民文化センターミューズ マーキーホール(埼玉県)
指定席 6,000円/自由席 一般 5,000円/学生 2,000円

【さつき会】次代を担う若者達の舞踊会
菊の会スタジオ(新宿区西落合)
5月25日(土) 12:00・16:00開演
26日(日) 12:00・16:00開演
料金/4,000円【全席自由】

【初夏に舞う】
千葉市文化センター アートホール(千葉県)
6月21日(金) 14:30開演
指定席 6,000円/自由席 一般 5,000円/学生 2,000円

【アトリエシネマ】畑道代の数々の舞台シーンをスクリーンでご覧頂けます。
菊の会スタジオ(新宿区)
7月22日~27日

【菊の会教室発表会】
板橋区立文化会館(板橋区)
8月11日(日)
入場無料(但し入場整理券を発行しております)

【菊の会浴衣会】古典舞踊を舞う
菊の会スタジオ(新宿区西落合)
9月8日(日) 12時開演
入場無料

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。
【チケット申し込み・お問い合わせ】
菊の会事務局 Tel 03-5983-6001 Fax 03-5983-6002



上 狂言舞踊『釣女』より
右 長唄『都風流』より

懐かしいメロディーにのせて、情熱的な踊りが次々と繰り出され、息をつく間がありませんでした。踊りは、生きることの喜びや悲しみを美しく、奥ゆかしく、時に激しく表します。何気ない人のあり様を、芸術へと昇華させ人の心を揺さぶります。踊りの力、素晴らしさを改めて感じ



加藤結理子 プロフィール

2007年 同志社大学文学部文化学科美学及び芸術学専攻卒業
(株)千總へ入社
関連会社(株)あーとにしむら配属
2009年 (株)千總 製作本部配属
千總資料館担当としてギャラリーの企画運営、
収蔵品の調査研究に携わる。

だったのが、舞踊選集『陽春に舞う』として、菊の会創立者畑道代氏が当時、歌謡曲のTV番組のために振付を手掛けた九つの作品。「契り」、「望郷じよんがら」、「夜桜お七」など、

ました。踊りは日本の美、日本の心。これからも、より多くの方がご覧くださることを願います。